

<付録> 年 表

年号 (西暦)	おもなできごと
(縄文時代 早期)	大磯の草分けとなった人たちが住み始めたと思われる(万台遺跡)。
天武 4 年 (675)	相模国造、師長国造が合併して相模の国となる。
霊亀 2 年 (716)	高麗人1,799人を武蔵国に移し、高麗郡を置く。
養老のころ(717~724)	相模国の国府祭が始まる。
天平 7 年 (735)	余綾郡と、その郡役所が国府地区に置かれる。
平安 中期	寺坂、王福寺の本造薬師如来坐像がつくられた。
天養~保元(1144~1158)	相模国の国府が余綾郡に移る。
建久 4 年 (1193)	曾我兄弟が富士の裾野で、父の敵工藤祐経を討つ。
永禄 4 年 (1561)	上杉謙信が小田原に攻めるにあたって、高麗寺城を攻め、陣をとる。
慶長 6 年 (1601)	東海道に宿駅の制が定められ、一里塚ができる。
寛文 4 年 (1664)	崇雪が鳴立庵を建てる。
元禄 8 年 (1695)	大淀三千風が鳴立庵主第一世として入庵。
享保 17 年 (1732)	享保の大飢饉。国府新宿も凶作にみまわれる。
宝暦 12 年 (1762)	大磯宿、神明町から鳴立沢まで消失する大火。
天保 7 年 (1836)	天保の飢饉で川崎屋などが打ちこわされる。
文久 1 年 (1861)	小野懐之が私塾「秉彝館」を開館。このころ大磯に私塾、寺子屋多し。
明治 4 年 (1871)	渡辺慶次郎(寺坂の人)が日本最初の落花生を栽培する。
明治 6 年 (1873)	学制発布により大磯小学校の前身「秉彝館」、国府小学校の前身「思文館」を開校。 大磯郵便取扱所が開設される。
明治 7 年 (1874)	金目村に捕亡出張所(大磯警察署の前身)を置き、大磯駅に分派捕亡所を置く。
明治 11 年 (1878)	大住・洵綾両郡役所を大磯駅に置く。
明治 18 年 (1885)	松本順、日本最初の海水浴場を開く。
明治 19 年 (1886)	添田辰五郎(国府本郷の人)がサフランを初めて栽培。
明治 20 年 (1887)	東海道本線、横浜・国府津間が開通、大磯駅もできる。
明治 22 年 (1889)	町村制が施行され、大磯町、国府村が誕生。
明治 23 年 (1890)	大磯町が大火にみまわれる。中川良知町長は、南下町の住民を長者町に移し、町の整備をはかる。
明治 29 年 (1896)	大住・洵綾両郡を合併して中郡と改め、郡役所を大磯町に置く。 伊藤博文、大磯町に滄浪閣を建て、町民となる。

年号 (西暦)	おもなできごと
明治 33 年 (1900)	大磯町に電気供給開始。
明治 35 年 (1902)	大磯郵便局、電話交換業務の取り扱いを開始(加入者：10戸)。
明治 36 年 (1903)	大磯漁業組合が設立される(現在の大磯町漁業協同組合)。
明治 40 年 (1907)	国府村に電気供給開始。
大正 12 年 (1923)	関東大震災(死傷行方不明約245人、家屋全・半壊約1,025戸)。
大正 15 年 (1926)	大磯小学校に大磯幼稚園を併設。 中郡役所廃止。
昭和 2 年 (1927)	大磯小学校に町立大磯実科高等女学校(現県立大磯高等学校)を併設。
昭和 8 年 (1933)	江の島入口・大磯間の湘南遊歩道路開通。
昭和 9 年 (1934)	県営水道、大磯の一部に給水開始。
昭和 11 年 (1936)	照ヶ崎海岸にプール完成。
昭和 15 年 (1940)	国府郵便局開局。
昭和 20 年 (1945)	米軍機の空襲を受け、寺坂地区の大半を焼失。
昭和 22 年 (1947)	エリザベス・サンダース・ホーム設立。
昭和 23 年 (1948)	町立図書館開館。
昭和 27 年 (1952)	国府村は国府町となる。 教育委員会設置。
昭和 29 年 (1954)	大磯カーニバル始まる。 大磯町と国府町が合併、大磯町となる。
昭和 30 年 (1955)	町立国府保育園開園。
昭和 31 年 (1956)	二宮英雄選手がメルボルンオリンピックに出場。 大磯文化史発刊。
昭和 34 年 (1959)	町立国府幼稚園開園。
昭和 35 年 (1960)	大磯町商工会が設立される。
昭和 38 年 (1963)	大磯バイパス完成。
昭和 39 年 (1964)	大磯ホテルが東京オリンピックのヨット選手村となる。 町章制定。
昭和 40 年 (1965)	吉田茂元首相、安田靫彦画伯に名誉町民の称号を贈呈。
昭和 41 年 (1966)	西湘バイパス大磯地区(大磯起点～葛川インターチェンジ)が開通。
昭和 43 年 (1968)	消防署開署。 米国オハイオ州デイトン市と姉妹都市を締結。
昭和 44 年 (1969)	厚木・小田原バイパスが開通し、大磯インターができる。 町立大磯保育園開園。

年号（西暦）	おもなできごと
昭和 45 年（ 1970 ）	曾根田恭男前町長に名誉町民の称号を贈呈。
昭和 46 年（ 1971 ）	町役場新庁舎が現在地に完成。
	高麗に相模貨物駅ができる。
昭和 48 年（ 1973 ）	町立小磯幼稚園開園。
	長野県小諸市・山口村と文学姉妹都市を締結。
	大磯港完成。
昭和 49 年（ 1974 ）	町立月京幼稚園開園。
	消防庁舎・武道館が完成。
昭和 50 年（ 1975 ）	町の木「くろまつ」「さざんか」に決定。
	故島崎藤村、高橋誠一郎氏に名誉町民の称号を贈呈。
	生沢プール完成。
昭和 53 年（ 1978 ）	環境美化センター「さざんか園」完成。
	国府支所新庁舎完成。
昭和 54 年（ 1979 ）	休日の急患診療開始。
	町立図書館国府分館開館。
	町立老人福祉センター開所。
昭和 55 年（ 1980 ）	住居表示を実施。
	町立国府中学校新校舎現在地に完成。
	故澤田美喜女史に名誉町民の称号を贈呈。
昭和 56 年（ 1981 ）	町民憲章制定。
	大磯町商工会館が完成。
	駅前自転車駐車場オープン。
昭和 57 年（ 1982 ）	保健センター完成。
	米国ウィスコンシン州ラシン市と姉妹都市を締結。
昭和 58 年（ 1983 ）	町立図書館が現在地に完成。
昭和 59 年（ 1984 ）	町立ふれあい会館開館。
	海水浴場開設100年記念式典を開催。
	町の鳥「かもめ」に決定。
昭和 60 年（ 1985 ）	町立国府保育園現在地に完成。
	大磯・二宮トンネル開通。
昭和 61 年（ 1986 ）	町立大磯小学校新校舎が完成、オープンスペース方式を取り入れる。
昭和 62 年（ 1987 ）	鳴立庵復元工事完成。
	平和宣言記念碑完成。

年号 (西暦)	おもなできごと
昭和 63 年 (1988)	郷土資料館開館。
平成 1 年 (1989)	町制施行100周年事業を開催。
平成 2 年 (1990)	県立大磯城山公園開園。 ごみ処理施設完成。 下水道整備に着工。
平成 3 年 (1991)	町史編さんを開始。
平成 4 年 (1992)	町立国府小学校新校舎が完成。オープンスペース方式を取り入れる。
平成 7 年 (1995)	照ヶ崎プールが新装オープン。 長野県小諸市と災害時相互支援協定を締結。
平成 8 年 (1996)	大磯町海岸自動車等乗入れ禁止条例を施行。 西部地区防災施設が完成。 旧島崎藤村邸を一般公開。
平成 9 年 (1997)	町道幹16号線城山トンネル開通。 町立国府小学校体育館が現在地に完成。 ダイオキシン対策、ごみの分別収集開始。
平成 10 年 (1998)	かながわゆめ・国体(ゴルフ・綱引)開催。 町の花「はまひるがお」に決定。
平成 11 年 (1999)	岩田記念室内競技場が完成。 生涯学習館がオープン。
平成 12 年 (2000)	町立大磯小学校が改装。 高麗・東町・大磯地区の一部地域で下水道供用開始。
平成 13 年 (2001)	大磯運動公園一部開園(テニスコートオープン)。
平成 14 年 (2002)	東海道シンポジウム大磯宿大会を開催。
平成 15 年 (2003)	横溝千鶴子記念障害福祉センター完成。 大磯町運動公園野球場が完成。 大磯町高麗と平塚市桜ヶ丘を結ぶ、高麗大橋開通。 県と共同で大磯こゆるぎ緑地(0.17ha)を購入。 旧野村研修所跡地(旧マリア聖堂)を購入。
平成 16 年 (2004)	大磯運動公園多目的広場が完成、全面オープン。 大磯町・国府町合併50周年事業を開催。
平成 17 年 (2005)	岐阜県中津川市・長野県小諸市との間で姉妹都市盟約、災害時相互応援協定を締結。

年号（西暦）	おもなできごと
平成 18 年（ 2006 ）	<p>旧野村研修所跡地の名称を「万台こゆるぎの森」とする。</p> <p>大磯駅バリアフリー化事業開始。</p> <p>旧吉田茂邸を県立都市公園として整備する方針が決定。</p>
平成 19 年（ 2007 ）	<p>松本順没後100周年記念事業を開催。</p> <p>旧吉田茂邸シンポジウムを開催。</p> <p>20年ぶりに鳴立庵の茅葺屋根葺き替え工事が行われる。</p>
平成 20 年（ 2008 ）	<p>大磯駅バリアフリー化工事完成。</p> <p>大磯運動公園、福祉センターさざれ石で指定管理者運営開始。</p>
平成 21 年（ 2009 ）	<p>旧吉田茂邸が火災により焼失。</p> <p>伊藤博文没後100年記念展を開催。</p> <p>電気自動車を公用車に導入。併せて、電気自動車用急速充電器を敷地内に設置。</p>
平成 22 年（ 2010 ）	<p>町立月京幼稚園が移転し、町立たかとり幼稚園開園。</p> <p>横溝千鶴子記念子育て支援総合センター完成。</p> <p>町の鳥「アオバト」に決定。</p>
平成 23 年（ 2011 ）	<p>大磯町自治基本条例を制定・施行。</p>
平成 24 年（ 2012 ）	<p>東海大学との包括的な提携に関する協定を締結。</p> <p>大磯町美しいまちづくり条例を制定・施行。</p> <p>旧木下家別邸（大磯駅前洋館）が国登録有形文化財（建造物）に登録。</p> <p>町立国府小学校に学校プールが完成。</p>
平成 25 年（ 2013 ）	<p>1市2町ごみ処理広域化開始。</p> <p>神奈川大学との包括的な提携に関する協定を締結。</p> <p>県立大磯城山公園「旧吉田茂邸地区」部分開園。</p>
平成 26 年（ 2014 ）	<p>大磯町合併60周年記念事業を行う。</p> <p>大磯海水浴場開設130年を迎える。</p>
平成 27 年（ 2015 ）	<p>旧町営照ヶ崎プールを改修した『ポートハウスてるがさき』開設。</p> <p>大磯町教育大綱を策定。</p> <p>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウンに決定。（エリトリア国）</p>
平成 28 年（ 2016 ）	<p>郷土資料館リニューアルオープン。</p>
平成 29 年（ 2017 ）	<p>ノーベル生理学・医学賞を受賞した大隅良典東京工業大学栄誉教授に大磯町名誉町民の称号を贈呈。</p> <p>旧吉田茂邸再建、公開。</p>

年号（西暦）	おもなできごと
平成 30 年（2018）	<p>大磯町・二宮町漁業協同組合が合併。</p> <p>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の ホストタウンに決定。（ブータン王国）</p> <p>大磯町美化センターにリサイクルセンターが完成。</p> <p>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の ホストタウンに決定。（ミャンマー連邦共和国）</p> <p>産業能率大学との包括的な提携に関する協定を締結。</p> <p>明治150年事業として「明治記念大磯邸園」の一部を記念公開。</p>
令和 元 年（2019）	<p>石坂卷子記念子育て支援センター完成。</p>
令和 2 年（2020）	<p>横溝千鶴子記念教育研究所完成。</p> <p>「太平洋岸自転車道」大磯区間全線開通。</p> <p>「明治記念大磯邸園」第1期開園。</p>
令和 3 年（2021）	<p>大磯港賑わい交流施設（OISO CONNECT）完成。</p> <p>大磯プリンスホテルが東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の オリンピックセーリング競技の選手村分村として開村。</p>
令和 4 年（2022）	<p>日本郵便株式会社との包括連携協定を締結。</p> <p>「明治記念大磯邸園」第2期開園。</p> <p>「明治記念大磯邸園」第3期開園。</p> <p>明治150年記念書籍「未来へつなぐ想い-わたしたちの大磯の歴史-」発行。</p>